

2024/10/11

## 島精機学童企画内学生企画プログラム実施報告書

### 1. 学生企画プログラム

1) 企画名：みんなでとばそうで しゃぼんだま

企画内容：しゃぼんだまを使っての子ども遊び

企画学生チーム名：しゃぼん玉（7名）

参加小学生数：50名

2) 企画名：みんなで仲を深めよう

企画内容：体育館を使った運動が苦手な得意な子も楽しめる運動プログラムの提供

企画学生チーム名：子ども応援隊（7名）

参加小学生数：50名

# SUMMER SCHOOL

毎日 英語レッスン実施

1日～利用可！

2024. 8.16金～8.23金

有償オプション付チケット  
先行販売  
7月7日(日)10:00～

1日参加チケットのみの販売  
7月13日(土)10:00～

場所：和歌山信愛大学（本町小学校跡）

料金：1日 3800円（昼食・おやつ付き）

対象年齢：小学校 1年生～6年生

定員：1日 35人程度

お預かり時間：7:30～19:00 のご希望時間帯



## 日替わりイベント

- \* 英語でパフェ作り
- \* 水遊び
- \* 宝探し など

## 有償オプションレッスン

- \* プログラミング
- \* 工作
- \* スポーツ教室 など

出張指導も!



イベントスケジュールは6月末に  
サマースクールHPにて発表いたします

## 1日のタイムテーブル例

※日替わりイベントによって時間変動します

～10:00	学習	宿題や自習教材持ち込み
10:00～	英語	約30分 初級・中級の2クラス
11:00～	レクリエーション	ゲームでお友達と仲良くなろう！
12:00～	昼食	栄養士が考えたバランスの良いメニュー
13:00～	日替わりイベント	楽しいイベントいっぱい！
14:30	おやつ	好きなおやつを選んでね！
15:00～	自由遊び 有償オプションレッスン	お部屋でも運動場でも、好きな方で 様々なジャンルのオプションレッスンも

サマースクールHP  
お申込みはこちら



フォローお願いします！



facebook

和歌山市 アフタースクール



## お問い合わせは

株式会社 島精機製作所

電話： 080-8315-9323

受付時間：平日9時～15時

担当：若野

メール： project-edu@shimaseiki.co.jp

黒字=日替わりイベント（全員参加）

青字=有償オプション（希望者のみ）

※イベントは天候や感染症の状況等で変更する場合があります

8/12(月)	8/13(火)	8/14(水)	8/15(木)	8/16(金)
閉室	閉室	閉室	閉室	 夏バテ解消！室内運動 冷房完備の部屋で楽しく運動遊び！ <b>ボールゲーム教室 1000円</b> アルテリーオ和歌山 ボールを使って、 いろいろな楽しいゲームをしよう！
8/19(月)  <b>ドッジボール大会！</b> しっかり遊んで運動不足解消！ ボールを転がすコロコロドッジも選べる から 小さい子も楽しく参加できるよ♪  <b>英語でサイエンス 1000円</b> -5 senses- 五感ってなあに？	8/20(火)  <b>夏だ！水遊び！</b> 運動場でみんなで水遊び！ 水鉄砲で盛り上がりよう！  <b>お絵かきプログラミング 1500円</b> 初めてでも簡単！ オリジナル金魚すくいを作ろう！	8/21(水)  <b>みんなで宝探し大会！</b> 信愛大学サークル「子ども応援隊」 チームで力をあわせて かくされたお宝を見つけよう！  <b>夏休み工作・SDGs体験 1500円</b> Let's make a Solar Lantern! 英語を学びながら、ソーラーランタンを作ろう♪	8/22(木)  <b>みんなでとばそう しゃぼん玉</b> 信愛大学サークル「しゃぼん玉」 しゃぼん玉の道具を工作するよ！ どんなしゃぼん玉ができるかな？  <b>モザイク☆フォトフレーム工作 1200円</b> 色とりどりのタイルで工作！ 夏休みの思い出の写真を飾ってね	8/23(金)  <b>英語でパフェ作り</b> トッピングでデコレーション！ 自分だけのパフェを作っちゃおう！  <b>サッカー教室 1000円</b> アルテリーオ和歌山 サッカー好き集まれ！ 個々に合わせた丁寧な指導⊕

## ①良くやれたと思われる点

- ・小学生に、絵本・制作・外遊び全て体験してもらい、シャボン玉を伝えることができた。特に絵本を導入に入れたことでシャボン玉への興味が引き出せた。学生一人ひとりに役割をこなしてくれて、シャボン玉大作戦を成功することができた。
- ・自己紹介の時に小学生の輪に入って深掘りして聞いたこと。ボール送りの時にどのようにしたらスムーズにボールを送れるかを子供達に考えさせたこと。
- ・絵本の読み聞かせでは、当日読む人が決まり、あまり時間がなかった中で、少し練習して強弱や抑揚を意識するなどを工夫することができたと思います。子どもたちが話す一つ一つのことに対応し、共感力を意識することができたと思っています。
- ・まず活動の導入として、シャボン玉の絵本で興味をもってもらえ、チーム分けのときに名前を呼ばれる前に立ち上がったり、工作の作業の説明前からモールやストローを触ってくれたりしていたことから小学生の早くやりたい！という気持ちをもってくれたと感じました。また、準備から企画終了まで子どもたちにとってどうすれば楽しんでもらえるかということを第一に考えながら協力することができました。
- ・1～6小学生という幅広い子達が入り交じる環境で全員が楽しめる遊びやそのルールについて考える場面や本番の進行がスムーズに行えたことは特にチームが結束でき、企画を無事に終えることができた。
- ・積極的にこども達とコミュニケーションをとることが出来た。チームで作戦会議をする場面や、整列する場面で、ひとりひとり名前を呼んで会話することが出来たので、こども達から話しかけられることを多かったと感じた。
- ・自己紹介する時に声が震えなかったこと。
- ・自己紹介の時に、恥ずかしくて言えないという子が何人かいた。その際に、言える子から言ってもらうようにしたり、その子のそばに行くことで、全員の自己紹介を聞くことができた。チーム全体を上手くまとめる事ができたと感じた。
- ・子ども達の要望にあったレクリエーションを企てることができた。
- ・まずは、事前準備を充分に行っていったことが良かった点だと思う。自分たちで役割分担をし、どのような活動をするのか、活動に必要なもの、活動のルールを細かく考えることが出来た。当日でも、開始時刻より早く集まり、練習するなどして、子どもたちがより活動を楽しむことができるよう行動できた。

## ②企画内（事前準備含む）にて工夫したところ

- ・グループ分けの首から下げるやつを少し多めに作ったこと。誰でもわかるキャラクター選びをしたこと。
  - ・絵本を、パワーポイントに落として、プロジェクトで全員がよく見れるようにした点。 事前に子供たちのグループ分けをして、グループリーダーを作っていた点。見本を作つといた点。
  - ・全体をどういう流れで進めればスムーズに行くか考えたこと。チーム分けを年齢や性別を考えて分けたこと。
  - ・チェーン、ストロー、モールを使った作り方の案をみんなにシェアしました。うちわを綺麗に剥がす方法を家で実践したりモールを使った作成において、子どもが作りたい形を再現できるように事前に複数の形作りを調べていました。
  - ・昨年も行ったというシャボン玉の企画内容を今年はどのようにアレンジすれば、その内容に違いを持たせたり、昨年参加した子どもも初めて参加する子どもも楽しめる内容にしたりするか、最後までアイデアをチームの中で共有し合いました。シャボン玉をする際に必要な道具を子どもたち自身で作ってもらう時間では、モールで自分の好きな形で作ってもらい、モールだけだと手が汚れて嫌と感じる子もいるのではないかと考え、輪ゴムやもう1本用意していたモールで割り箸に括ってもらおうと考えたことも工夫しました。
  - ・1位のチームには景品をつけるかつけないかを同列になった時などを考え最終まで議論したこと。
  - ・宝探しゲームの説明をする際にいかに短く子ども達がわかりやすいように説明することができるかを考えた。また宝の隠す場所。小学1年生から6年生まで来ることを聞いていたので、身長もバラバラなことを理解して、危険なところには隠さないように工夫した。
  - ・宝探しゲームで、点数の高さによって見つける難易度を上げたこと。(1点であればすぐ分かる場所、5点であればよく見ないと分からぬ場所など)見つけたらカードが混ざらないように、アンパンマンチーム、ぱいきんまんチーム、食パンマンチームで貰う人を分けたこと。
  - ・グループ分けをする時に、キャラクターを用いて行うことで子ども達の興味・関心を高めることができた。
  - ・チーム分けをする際や、宝探しをする際に、チーム分けでは、子どもが親しむキャラクターの視覚教材を用意し、宝探しの宝は、折り紙であり、子どもが活動だけではなく視覚的にも楽しむことができるよう工夫した。
- また、子どもたちが話し合い、より良い活動をするにはどうすればよいのか自ら考えることができる時間を作った点も工夫したことである。

### ③今後の改善点（やってみて気が付いた課題等）

- ・チームで自己紹介の時に、ずっと同じ場所に座るのではなく、話す子どもの横に移動してみんなに聞こえるように名前の復唱をする。子どもたちが好きそうなキャラクターを調べる。スズランテープだと痒いので別のもので代用できるか考える必要がある。子どもたちの目線の高さに常に合わせるようにする。注目してもらうための言葉選びや動きをもっと身につける。恥ずかしさを捨てて自信を持って喋れるようにする。
- ・シャボン液が少なかったので多めに用意するべきだった。工作が、思っている以上に時間をとっていたので、もっと事前に円滑に進める方法を考えるべきだった。シャボン玉をもっとみんなに楽しんでもらえるよう、事前に大きいシャボン玉を作る道具・つらなったシャボン玉を作る道具などの道具をたくさん作っておくべきだった。学生全体でもっと集まる機会を増やせして話し合えばよかった。
- ・ボール送りの時に2つに分かれてアンカーとトップバッターがどちらにいるべきか確認するのに苦労したこと。
- ・同じタイミングに何人の子供たちに声をかけられた時に上手く対応できませんでした。テキパキとした行動を取ることが出来ず、庭に移動にするのに時間がかかってしまったことや子どもたちが先に手前のボックスを見つけて座り込んでしまった流れで、後のグループの順番が逆になってしまったことは私のミスです。また9人の小学生を任されて、一人一人を見ているつもりだったけど、発言をよくする子、あまりしない子と対応の差が出てしまっていたと感じました。モールやストローを使ったしゃぼん玉作りでは、何回もチャレンジしてできる子どももたくさんいたけれど、最後までできなかった子もいました。うちわが人気で、自分達で作った作品はほとんど使っている子はいませんでした。また、使用済みのストローを地面に置いている子が多くいて、衛生面的には非常に良くなかったと思いました。置く場所を作るか、名前を書くという工夫は出来たなと思いました。輪ゴム鉄砲をしている子がいて、軽く注意をしたつもりだったのですがやめてくれませんでした。もし何かあった時を考えると、もっと違う対応方法や言い方があったんじゃないかなと後悔しています。また輪ゴムを近くに置いたのも良くなかったと思いました。
- ・事前に準備できたこともあったが、当日になってモールが足りないと買い出しに行ったり、ストローを短く切ったりして、子どもたちが来る直前まで準備をしていたことです。また、工作の時間で担当しているグループの子どもたちを1人で対応しようとして焦ってしまい、「ハサミ貸して」「作り方教えて」と子どもたちが言ってくれたことにすぐ対応できなかったり、他のメンバーに助けを求めることができなかったりして、もっと私自身力を付けていく必要があると自覚することができました。
- ・宝探しの宝をもっと多く作るようにしてより長い時間楽しんで貰えるようにしたいと思った。
- ・ひとり一個以上見つけることができるよう、宝の数を増やす。また1回だけでなく、2回目もできるように、中と外、別々で宝を隠しても良かったかもしれない。
- ・ルール説明をする時に、緊張をしてしまい子どもたちに分かりやすく話せなかった。落ち着いて話すことが課題だと思った。
- ・ルールの説明をする際に子ども達を上手く集中させることができなかつたのでこれからは集中して話を聞ける環境を作りたい。
- ・改善点としては、チーム分けをする際に必要な視覚教材にスズランテープを使用していたことだ。子どもの中にはスズランテープが肌と擦れ合い、かゆくなり嫌という子どもがいた。スズランテープではなく、マジックテープを使用することや被り物としての視覚教材を用意すべきだった。また、活動を通して子ども同士の交流の場がもっとあっても良かったのではないかと考える。子どもたちが活動で関わることができても個人同士で関わるという時間が少なかったと考える。時間の関係上難しいが、次回からは子ども一人一人がコミュニケーションを取ることができる活動を取り入れてみてはと考える。

#### ④協働作業を感じることができましたか

- ・どうしていいか分からなかった時に、先輩がフォローしてくれたり、ボール渡しの時に、6年生が中心になってみんなで作戦会議が行われたりしていて協働的だったと思う。
- ・チームで事前作業や見本を作る時、チームで本番の準備と、本番の片付け、先生と、打ち合わせをした。
- ・それぞれの担当している生徒達と協力しながらプログラムを進めたこと。
- ・他のメンバーや先生を見ていると、階段での声かけや名前を読んだり、一つ一つのことを簡潔に伝えたりしていて、今後取り入れたいと思いました。子どもの配慮や子どもとの距離感の工夫が私には足りなかったなと感じました。帰り際、ある子に暑かったし、難しかったからもうやりたくないと言われて正直ショックだったけど、この一言を通じて今日の活動を振り返り、どうすればより良い方向に進んだのかなどを深く考えることが出来ました。楽しかったと笑顔で伝えてくれる子どもや落ちているモールやストロー捨ててくるよと言ってくれた子どもの気遣いに感動しました。初めて複数の子どもと関わってみて、失敗や反省の方が多かったけど、10月にある実習に生かすことができる大切な時間だったなと思いました。
- ・協働作業を感じることができました。準備から後片付けまでチームのメンバーと協力したり、小学生に作り方を伝えながら一緒にモールで形を作ったり、シャボン玉を飛ばしてみたりしてコミュニケーションをたくさん取りながら作業を進めることができたと感じています。
- ・できた。
- ・島精機のチームのみんなとは何回も集まってそれぞれの意見を述べながら、良いアイデアを抽出することが出来たと感じた。小学生のみんなとも同じゲームに私もすることで、『頑張ってください！』や、『どうしたらそんなに早くバランスとりながら走れるんですか？』と声をかけてもらうことができた。
- ・ボール送りの時に、走っている子をチームの皆が「頑張れ！！」と、応援をして盛り上がっていたので、チームでの絆が深まっていると感じた。
- ・カテゴリーごとに責任を持って作業をすることができた。
- ・感じることができた。事前準備から自分たちで集まる日を決め、どのような活動をするのか意見を出し合いながら考えた。考えた後は、役割分担をし、協力し合い視覚教材を作り、活動をどのように行うのかを一緒に考えることができた。また、自分たちのグループLINEを作り、連絡のやり取りを大切にしていた。